

29年度「地域における学びのワークショップ」実施結果

基本方針：市内全域の人々が集い・学び・交わる。

事業目的：公民館活動を市内全域に広げていき、最終的には地域でのリーダーを養成していく。

主な内容：①生涯学習・公民館活動などについて、理論や方法などを学ぶ。

②他地域の事例発表を聞く。

③他地域の人々と情報交換・交流を行う。

実施形態：出前講習会（全3回※公民館分館のない地域）・全体講習会（全3回）

講師・コーディネーター：佛教大学非常勤講師内山淳子さん（社会教育委員）

実施経過

4月～7月 いがまち・阿山・大山田地区については、事前に支所管内の会議で地域へ説明する。「地域リーダー養成講座」の名称が問題になり、地域づくりと生涯学習の関連が理解されない。

8月4日(金) 大山田地区出前講習会（参加者15名）

8月26日(土) 阿山地区出前講習会（参加者9名）

9月1日(金) いがまち地区出前講習会（参加者21名）

出前講習会の趣向：地域の「心配と誇り」を住民自らが掘り起こし、記録することで、文化の保存・発展につなげていく。

☆出前講習会の成果&課題

- ・これまで生涯学習課と接点のなかった方々がやる気を持って参加している。
- ・地域づくり、地域活性化と生涯学習の関係は、段々と理解されてきている様子。
- ・各地区とも、現状への危機感は大変大きい。一番は少子高齢化。地域への愛着は大きい。
- ・話し合いが回り始めると活気が出て、時間が足りない。「良さ」よりも「不安」先行。
- ・全体会への関心は身近な出前講座によって高まったといえる。今後の展開が課題。

9月29日(金) 全体会①（参加者34名）

「なぜ、教育委員会でまちづくりなのか？」という問題提起に対して、社会教育・公民館活動とまちづくりの関係、生涯学習の意味などを学習した。着席は地域ランダム。2人組で話をした後、グループでKJ法による地域自慢・課題を出し合った。

- ・出前講習会からの参加者及び昨年度の公民館職員研修からの参加者も多くはないがあり、熱心である。
- ・現在何かの地域活動をリードしている人、意識の高い人が多く、話し合いは順調。

全体会①後に実施したアンケート結果 回答者47名（欠席館含む）

- ・伊賀市全体の交流会やワークショップの機会を持つことについて

今後も開催した方がよい そう思う 29 ややそう思う 16 ややそう思わない 2 全く思わない 0

都合がつけば参加したい そう思う 27 ややそう思う 18 ややそう思わない 2 全く思わない 0

- ・希望開催時間帯 平日夜 35 土曜午前 14 土曜午後 4 女性・高齢者は夜出にくい？夜6時から？土曜昼？

アンケート回答者の中から、今後自主的に活動を推進していただける方々が集まって打ち合わせ会が行われた。11月29日(水)有志打ち合わせ①(参加者10名)

12月22日(金) 全体会②(参加者42名)

伊賀市のまちづくりには、制度づくりだけではなく、その後の情報共有・学びが必要ではないかということ、ライフサイクルと生涯学習について学習した。着席は地区別。グループで「地域調べシート」を作り地区ごとに記載してもらい発表。

- ・前回からの連続参加者が多い。

終了後 有志打ち合わせ②(参加者9名)

2月23日(金) 全体会③(参加者46名)

事例活動報告として下記の3名の方々に発表してもらった。

- ①上野生涯学習推進会議代表上出さん
- ②上野公民館分館依那古公民館長西さん
- ③青山公民館6分館代表坂野さん

着席は地区別。次年度に向けての地区の紹介調べのお願い&グループでの意見交換。

- ・前回からの連続参加者に加え、初参加も12人。
- ・他地区の活動報告が、参加者には好評であった。

2月24日(土)有志打ち合わせ③(参加者8名)

☆全体会の成果&課題

- ・参加者が定着して、やる気を持って参加する方が増えてきた。
- ・分館のない地域へも公民館活動への機運が高まった。
- ・参加者の中から有志の方々が講師を囲み定期的集まる場ができた。
- ・住民と行政職員の距離が縮まるきっかけになり、地区公民館の役割を再認識できた。
- ・情報交換する話題を統一し、一度きりではなく継続性のある議論にしていく必要がある。
- ・官民連携して進め方・スケジュール・最終的な目標等を見直していく必要がある。

3月13日(火)次年度開催に向けた懇談会(参加者8名)

30年度

- ・生涯学習課、地区公民館、参加者有志で構成する運営委員会を開催し進めていく。
- ・ワークショップではなく交流会にしていく。
- ・全体交流会開催までに、各自治協(分館)に可能な範囲で各地区の紹介シートの作成を依頼して提出してもらおう。それをまとめて一覧にして参加者に配布し、それをもとに交流をしてもらい、地域での活動に役立ててもらおう。
- ・最終的には地域の宝を推薦できるようにしていく。
- ・必要に応じて地区公民館単位での交流会も開催する。
- ・公民館職員向けの研修会は別途開催する必要がある。